



Yさんは長年、拙寺法話会「正信会」の会員であり、毎月の「写経の会」には必ず参加しておられます。

先日、お庫裡で坊守との会話。

「足も腰も頭も、あちこち痛くて調子が悪くて、ほんとに年を取るということがないよ!」と。

すると坊守は、事もあろうにこう言いました。

「Yさん、私はそんな年寄りにだけはなりたくないよ。私も眠れないくらい膝が痛かったお陰で、今動けることにすごく感謝できる自分がいるんだよ。」

年下の坊守に言われたYさんは「やっぱりお寺に来て、聴かせてもらわないといけないよね。これからまた正信会、頑張っ出てきますね。」

Yさんがこういう受け止めができる人であることと、二人の信頼関係があつてこそ成立した会話でした。

以前、宮城顗先生が15歳年上の和田稠先生のことをこうお話されていました。

「3年ほど前にお会いしましたら私の顔を見ていきなり『宮城さんおもしろいね』とおっしゃるので『何かおもしろいことがありましたか』と聞くと『うーん、足が曲がらなくなつてね』と、こうおっしゃるのです。それから『耳が遠くなつてね』と、こうおっしゃる。」

東井義雄先生の詩です。

「老い」

老いは失われていく過程のことではあるけれども

得させてもらう過程でもある
視力はだんだん失われていくが
花がだんだん美しく不思議に見させてもらえるようになる
聴力はだんだん失われていくが
ものいわぬ花の音が聞こえるようになる

そんな年寄りだけ にはなりたくない

住職 樋口祐慈

やる。それで『そんなことがおもしろいのですか』といったら『うーん、はじめての経験だからね。足が曲がらなくなるのはこういうことなのか、耳が遠くなつたらこういう思いをするのかと、おもしろいね、毎日新しい体験させてもらえる』と、そういう受け止めをなさっているのです。そのような受け止めが出来る方ですから、あれだけお若いのでしょうか。」

ることのただごとでなさが体中から失われていくことはさみしいが得させていたたくことはよろこび
老も、死も、み手のまんなか
老いのよろこびは
得させていたたくよろこび

曾我量深先生は、81歳の誕生日にこんな挨拶をされました。

「初めて81歳になりました。今ま

でわからなかったことが、わかるような気がしています。」

現在、社会全体に年を取ることを極端に怖がる空気を感じます。

「若さを保ちたい」「年寄りくさくありたくない」という欲求が強くなり、アンチエイジングに精を出し、服装やメイク、言葉遣いもそういう傾向にあります。最近増えてきた「じいじ・ばあば」という言い方も「もう老年である」とに對する拒否・否認の現れだと思われまふ。

ごめんなさいね おかあさん
ごめんなさいね おかあさん
ぼくが生まれて ごめんなさい
ぼくを背負う かあさんの
細いうなじに ぼくは言う
ぼくさえ 生まれてなかったら
かあさんの
しらがもなかったらうね
大きくなった このぼくを
背負って歩く 悲しさも
かたわの子だねと振り返る
つめたい視線に 泣くことも
ばくさえ 生まれなかったら

この詩の作者は山田康文くん。生まれた時から全身が不自由で書くことも話すことも出来ません。

養護学校の向野幾世先生が、康文くんを抱きしめて投げかける言葉が康文くんのいい言葉の場合ウインクでイエス、ノーの時は康文くんが舌を出します。出だしの「ごめんなさいね おかあさん」だけで1ヶ月かかりました。気の遠くなるような作業を経て、この詩は生まれました。向野先生は「あの子の詩は、障害者がごめんなさいね、なんて言わなくてもむような世の中であってほしいというメッセージ。へ中略へ今、障害者の問題は、高齢者の方たちの問題でもあります。老いるというのは、障害が先送りされているということ。歳をとると足腰が不自由になって車椅子が必要になったり、知的障害になったり…。健常者の方も、たいていはいつか障害者になるんですよ。」

浄土真宗のご利益は「現実を引き受けること」です。石川洋先生は「お念仏を生きる人の一番大事なことは、人と比較しないこと、いただいたご縁をまっとうすること」だと言われました。自分が老いること、衰えることを引き受けまっとうする年寄りを目指したいと思うのです。

報恩講 2024年12月5・6・7・8日 三昼夜九座法要 法話公演；樺山正樹師・藤原千佳子師
愛の輪実行委員会・一楽真師・みらい堂・鷹巣純師・西三河雅楽研究会

行事写真報告





味噌作りの会 2月3・6・11・14日 55名参加・大豆132.5kg
・53樽の無添加手作り味噌を仕上げました



春のフェスティバル

花まつり

5月17日
午前・午後



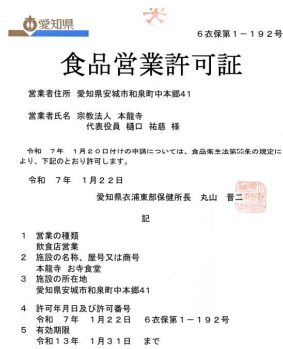
お寺食堂

始めました

毎月1回 約80食の手作り料理 1食700円 ゆっくり食べておしゃべりする日
 季節の野菜や発酵食品などをふんだんに使用 コーヒーor紅茶・デザート付き
 お寺でまったり 老いも若きも 大人も子どもも ホットできる時間と人と場所



2月



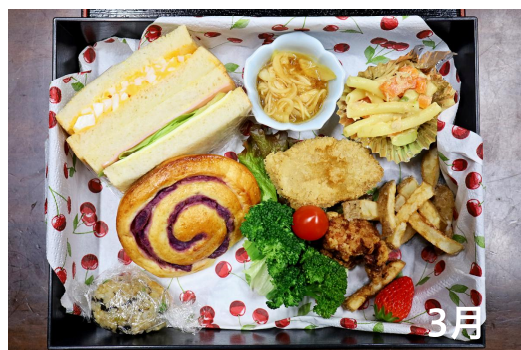
1月



スタッフ



4月



3月



5月

本廟奉仕&帰敬式受式

6月20・21日 京都・東本願寺の研修に1泊5名、1日5名参加。帰敬式を受式しました。



清掃奉仕



諸殿拝観



講義・座談



会長・感話発表



御影堂門階段にて



青蓮院参拝



帰敬式受式



食事

教導さんがご自身の身を通した話をされたことが有り難かったし伝わりました。いつもは物静かな方が、涙ながらにご家庭の事情を語り「自分が握りしめていたものを離せばいいんだ」と明るい顔をされました。ずっと自坊にいただけでは伝わらないことも、ご本山の場の力も加わって、参加された方の身に響いたことが何より嬉しかったです。 坊守 樋口頼子

「迷いや苦しみがどこから来るのか」を知ることができ、心に留まる言葉に出会えてよかったです。自分自身を振り返るいい機会を与えてくださり、ありがとうございます。 早川紀美江

副会長 杵名光江

「ご講義で「名聞・利養・勝他」について考えさせられました。私はそれらばかりの人間ですが、自分を見つめ直し、日々楽しく暮らしていきたいと思います。」

法話を聞いて自分自身に当てはまることが多くあり、目からうろこです。帰敬式を終え、心が新たになって、仏さまの世界が身近に感じられました。 会長 杵名元子

■ 参加者の感想文より ■

合唱団交流会



徳円寺さんと合同練習



2024年3月 本住寺さんにて



徳円寺さんと交流会



本住寺さん交流会



昨年6月本住寺さんと合同練習

昨年3月に津島市の本住寺さんに新曲初演のお手伝いにご縁に合同練習会と交流会が実現。今年4月には北名古屋市の徳円寺さんとも合同練習会&交流会を開催。ご指導はともに平田聖子先生。



キャタピラ競争



缶バッチ



花まつり



餅つき



味噌作り



凧作り



まかない



料理教室



合唱団

今年1月から「子ども日曜学校」を全面的に准坊守が担当しています。ここ数年、新しい発想と企画でお寺を側面から盛り上げてきました。SNS広報として「行事ダイジェスト動画」を制作したり、本龍寺Instagramも開設。皆さんと一緒に歌って、料理して、掃除して、子育てしながら奮闘しています。



動画は各約5分、LINEで配信。お寺でも行事の時に大型テレビで放映します。



団体参拝2024



本龍寺 日曜学校 卒業ムービー



雪のフェスティバル 2025



秋季彼岸会2024



報恩講2024が勤まりました



春季彼岸会 2025

准坊守奮闘記

本龍寺通信《番外編⑪》

和泉の本龍寺

検索

～ハッとしたとき出るエッセイ～



坊守のひとりごと



愛知県安城市和泉町中本郷41

2025年7月12日号

「奥さん、さすがだね」

数年前より 頸椎症^{けいついしやう}、ぎっくり腰^{ひざ}、膝の痛みなどと付き合ってきました。そして今年2月、突然夜中に左膝の激痛に襲われて立つことも歩くこともできなくなり、とうとう車いす生活に。昔はあんなにつまらなかったお寺での生活が今では楽しくて、仕事が見える分忙しくて、なんてやりがいのある大事な場所に暮らせてもらっているのかと充実した日々を送っていたのに、です。

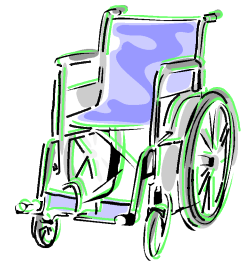
3月のある日、Yさんが「庭のつりがね草が咲いたから」と、ご自分で育てたお花を届けに来て下さいました。足を引きずって出ていった私を見て「奥さんも足が痛い？私も足も腰も頭も、あちこち痛くて調子が悪くて、ほんとに年を取るといいことがないよ！」としかめっ面をして言われるのです。

その途端、私にスイッチが入ってしまいました。一回り以上も年上のYさんにこう言ったのです。

「Yさん私はね、そういう年寄りにだけはなりたくないと思ってるよ。私も眠れないくらい膝が痛かったお陰で痛みなく眠れることがありがたいと思えるし、立てない歩けない時があったから足を引きずりながらも歩けることがありがたいし。本当に今まで当たり前だと思って暮らしてきたけれど、普通に動けることに今はすごく感謝できる自分がいるんだよ。」

するとYさんは次の言葉を。

「奥さん、さすがだね。やっぱりお寺に来て、聴かせてもらわないといけいないよね。寒かったり腰が痛かったり頭が痛かったり、いろんな理由で 正信会^{しょうしんかい}を休んでばかりだけど、これからまた頑張っ出てきますね。」



Yさんが明るい顔で帰って行かれてから、私の耳にこだましたのは「奥さん、さすがだね」のひと言でした。60過ぎのちょっとした初老体験を高飛車に語り、70代を生きるYさんの痛みや悲しみやつらさがまるで見えていなかった自分の小さく滑稽^{こっけい}な姿が、その姿勢によって照らされたのでした。

本堂の掲示板に「自らの過ちを恥じ痛むことのみが、同じ間違いを繰り返さない道」とありました。「恥じ痛む」ためには自分より大きな存在に出会うこと。すぐに調子に乗ってしまう私の根性を、Yさんの謙虚な姿が「痛み」をもって知らしめてくださいました。この感覚を大切に、毎日の生活を送っていきたいと思います。

坊守 樋口頼子

あ
と
が
き

第81号をお届けします。現在は確実に「コロナ後新時代」になりました。葬儀や法事など今まで当たり前に行われていたことも、意義や大切さをきちんと伝えないと消えてしまう時代です。何百年続いたお寺でも、自己改革なしには生き残れないと肝に銘じています。〈頼〉